

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市脇浜4丁目16番1号	氏名	住友重機械ギヤボックス株式会社 代表取締役社長 荒木 達朗
特定事業者の主たる業種		25はん用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		歯車・減速装置・増速装置等製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	2,561 t-CO ₂	2,365 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,857 t-CO ₂	2,609 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.0%	-0.2%	7.7%	%
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.1%	0.4%	8.7%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
-	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・水銀灯をLEDに置き換えるなど省エネ機器導入が進んでおり、18年度から省エネに貢献した。 ・工場空調機を省エネタイプへの更新が完了し、19年度からの省エネ貢献を予定

(2) 推進体制

<p>環境Gが環境省エネ委員会を毎月開催し、環境情報を共有化しながら実行計画の浸透を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎月のエネルギー使用実績値の報告と、省エネ実行計画の各職場への展開を図る ●環境省エネパトロールをおこない(1回/2ヶ月)、計画が確実に実行されていることを確認する

実績報告書

		大阪市住之江区泉1-1-71		住之江興業株式会社 取締役社長 住田 弘之
届出者		住所	氏名	
特定事業者の主たる業種			80娯楽業	
該当する特定事業者の要件			レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者
事業の概要			主に、ボートレース住之江（住之江競艇場 モーターボートの競走場）の建物・設備を所有し、地方自治体（大阪府都市競艇企業団・箕面市）に賃貸を行っている。	

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017 年	4 月	1 日	～	2020 年	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	4,492 t-CO ₂	4,225 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,874 t-CO ₂	4,590 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 3.0 %	%	%	%
		削減率(原単位ベース) %	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		%	-0.5 %	4.9 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(空調面積×時間+照明面積×時間)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)		

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

場内の蛍光灯及び水銀灯をLED照明に取り替えて消費電力を削減(42,889kw/年)した。

(2) 推進体制

<p>競艇を運営している施行者(大阪府都市競艇企業団・箕面市)及び実施団体(日本モーターボート競走会)に対し、当施設が第二種エネルギー指定工場であることを通知し、今後の省エネへの理解と協力を求め、4団体による省エネを推進できる体制を平成23年度からスタートさせ、省エネに関する情報を共有化し、更なる省エネ施策を検討・実施できるように、当社が主体となって推進している。</p>
ナイター照明用ガス発電機のピークカット運転(331.89時間/年)を実施し、需給電力を削減(238,960kw/年)した。